

さやいんげん 【品種】キセラ（雪印）

目標収量：100kg/a

作型	月		3		4		5		6		7		8		9 ~ 10				
	下	上	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下		
トンネル 早熟栽培	○	←	○	←	○	←	○	←	○	←	○	←	○	←	○	←	○	←	
露地栽培					○	←	○	←	○	←	○	←	○	←	○	←	○	←	
ハウス抑制																			
作業内容 (5/上まき 露地栽培)					播種	寄① せ回 目 追肥 ・ 土			き② 藁回 穫目 始 追め 肥 ・ 敷										

○：トンネル被覆、○：播種、□：収穫

栽培のポイント

1. 段まき栽培により長期出荷を心がける。
2. 3～4年間の輪作を行う。（同じ圃場での連作は生育量が低下し減収する）
3. 風当たりの強い圃場は避け、湿害・乾燥対策を行う。
4. 30℃を超える高温にあうと、落花、落莢（さや落ち）が多くなる。

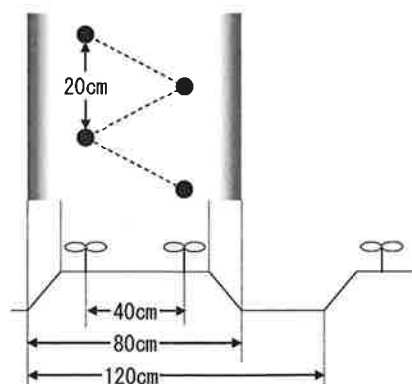
栽培の手引き

1. 圃場準備

- (1) 播種7日前までに施肥・うね立てを行う。排水の悪い圃場は高うねとする。
植栽間隔：うね幅120cm、2条千鳥、株間20cm（栽植密度830株/a）
- (2) 土寄せ栽培：マルチ被覆しない。
- (3) マルチ栽培：低温時期の栽培（3月下旬～4月中旬）は、透明マルチ（厚さ0.02×幅90cm～100cm）を被覆して地温を上げる。5月以降の播種は、黒マルチを基本とするが、7月以降の夏まきは地温が高くなるため白黒ダブルマルチを使用するなど、播種時期に合わせた資材で被覆する。施肥は、肥効調節型肥料を用いた全量基肥とする。

2. 播種

- (1) 種子使用量（1 a 当たり）
1穴1粒播き：830粒+補植苗170粒
覆土：約1cm



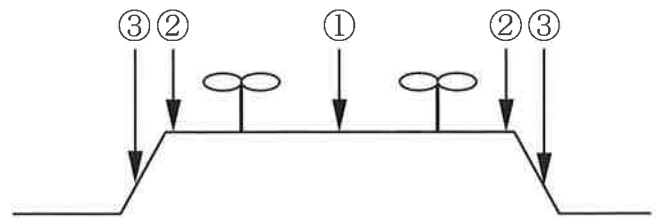
3. 追 肥

(1) 追肥のタイミング

追肥は、降雨後や降雨が予測される前日などに施用する。

(2) 土寄せ栽培の追肥

- ① 1回目：本葉2～3枚頃
- ② 2回目：開花初期
- ③ 3回目：収穫最盛期



施肥位置図

4. 土寄せ・敷わら

(1) 1回目の追肥後、土寄せ栽培では本葉4～5枚時に根を切らないように子葉が隠れる程度の土寄せをする。また、土寄せ後は抑草、乾燥・病害防止のため、敷わらをする。

(2) マルチ栽培では、高温期の地温上昇を抑えるために敷わらをする。

5. 排水・かん水対策

(1) 湿害に弱いため、梅雨時期を見越した排水対策（額縁排水など）を行う。（根腐れや軟弱徒長防止）

(2) わい性インゲン（キセラなど）は短期間に開花が集中し、莢の肥大も同時に起こるため、開花期以降は土壌を極端に乾燥させないようこまめにかん水を行う。

(3) 草勢維持のため、かん水時に液肥を混用すると良い。希釈した液肥（200倍以上）は、植物体にかからないように注意して土壌にかん注する。

6. 摘葉（葉かき）

(1) 開花期以降から1週間に1回程度、病害葉や古葉などを摘葉する。（通風し・日当たりの確保）

(2) 葉が混みあうと、病害虫が発生しやすくなるうえ、防除薬剤がかかりにくくなる。

7. 収穫

(1) 開花約10日後から収穫適期となる。

(2) 取り残しが増えると草勢が急激に弱まり、新しい花芽分化も抑制されるため、奇形・曲がり莢もすべて収穫する。

(3) 種子部が盛り上がらないよう早採りする。

(4) 気温の低い早朝に収穫し、鮮度保持を心懸ける。

8. 施肥基準

< 土寄せ栽培（追肥タイプ） >

(kg/a)

肥料名		方法	総量	基肥	追肥			備考
					1	2	3	
有機8（エイト）			14	14				
磷硝酸入り粒状複合S333			4		2	1	1	
苦土重焼燐			2	2				
苦土石灰			10~15	10~15				
堆肥			200	200				
成分量	チッソ		1.64	1.12	0.26	0.13	0.13	
	リンサン		2.34	1.82	0.26	0.13	0.13	
	カリ		1.64	1.12	0.26	0.13	0.13	

< マルチ栽培（全量基肥タイプ） >

(kg/a)

肥料名		方法	総量	基肥	備考
BB444-50号			12	12	・BB444-50号は肥効調節型肥料であり、N14%のうち7%が被覆尿素の50日タイプである。 ・葉色が薄い場合は、液肥10号（200倍以上）を土壌にかん注する。
苦土重焼燐			2	2	
苦土石灰			10~15	10~15	
堆肥			200	200	
成分量	チッソ		1.68	1.68	
	リンサン		2.38	2.38	
	カリ		1.68	1.68	



マルチ栽培風景

9. さやいんげん病虫害防除

【平成26年12月3日現在】

対象病虫害	薬 剤 名	安全使用基準			備考
		希釈倍率	収穫前日数 (~まで)	使用回数 (以内)	
さび病 灰色かび病	カリグリーン 注1)	800倍	前日	—	100~ 300L/10a
灰色かび病 菌核病	セイビアーフロアブル20	1,000~ 1,500倍	前日	3回	100~ 300L/10a
アブラムシ類	アドマイヤー1粒剤	1~2g/株、 但し6kg/ 10aまで	定植時 または 播種時	1回	植穴土壌混和
	モスピラン水溶剤	2,000~ 4,000倍	前日	3回	100~ 300L/10a
	アクタラ顆粒水溶剤	3,000倍	前日	3回	100~ 300L/10a
アブラムシ類 フキノメイガ インゲンテントウ	エルサン乳剤	1,000~ 2,000倍 1,000倍	7日	合計 1回	100~ 300L/10a
ワタアブラムシ ウラナミシジミ マメノメイガ	トレボン乳剤	1,000倍	7日	2回	100~ 300L/10a
マメハモグリバエ	カスケード乳剤	2,000倍	前日	2回	100~ 300L/10a
	アフーム乳剤	2,000倍	前日	2回	100~ 300L/10a
ハダニ類	ニッソラン水和剤	2,000倍	前日	2回	成虫には効果が少ない 100~ 300L/10a
ナメクジ類 カタツムリ類	ス ラ ゴ	1~5g/m ²	発生時	—	発生あるいは 加害を受けた 場所又は株元 に配置

注1) カリグリーンは野菜類で登録あり。

※ハウス内で栽培する場合、害虫侵入防止のためハウスサイド・出入口に寒冷紗を張る。